

# みんなで守り、はぐくむ 宍道湖・中海

～一人ひとりが、できることから始めよう～



宍道湖と中海は、世界的にたいへん重要な湿地であると認められたことから、平成17年11月にラムサール条約湿地として登録され、令和2年に登録から15周年を迎えました。次世代の人たちに両湖の恵みを残せるよう、引き続き一人ひとりが湖の保全活動に取り組むことが大切です。



宍道湖のシジミ

令和2年3月 島根県



中海のサルボウ貝

# 宍道湖・中海の状況

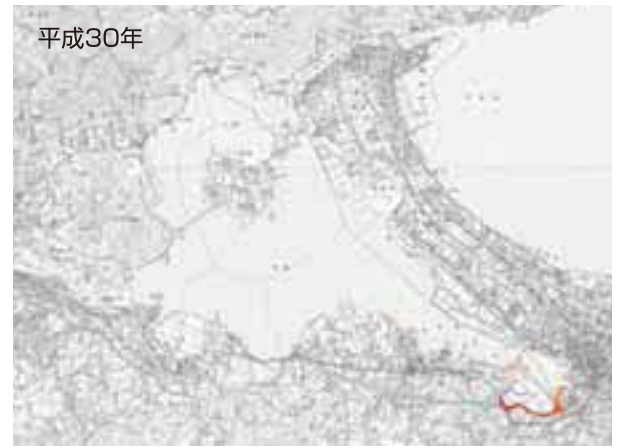
## ■地域住民による評価

地域住民等がモニターとなり、人の五感を通じて宍道湖・中海の環境をチェックする「五感による湖沼環境調査」では、宍道湖も中海も「ますます良好な環境であると感じられる」という結果でした。



## ■赤潮の確認範囲(中海)

赤潮の確認範囲は、局地的なものになってきています。



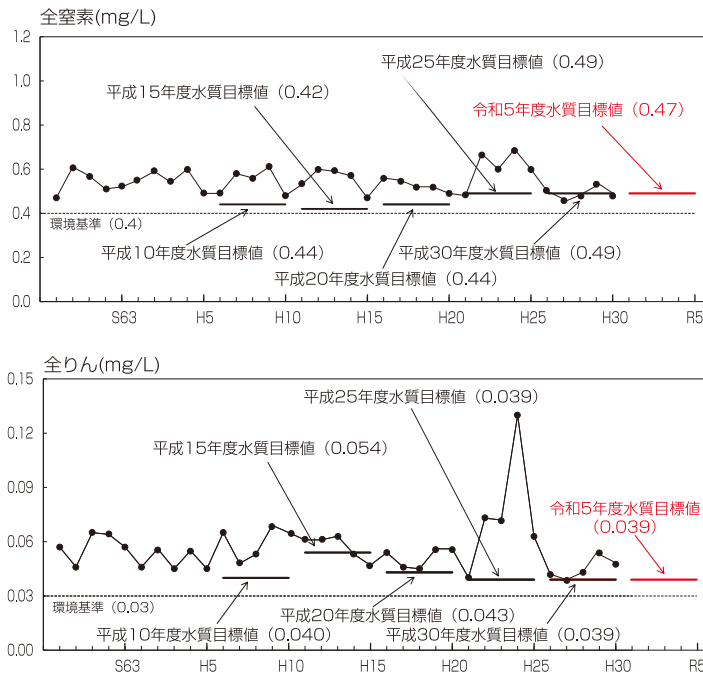
(出典：中海の水質及び流動会議資料)

## ■宍道湖・中海の水質

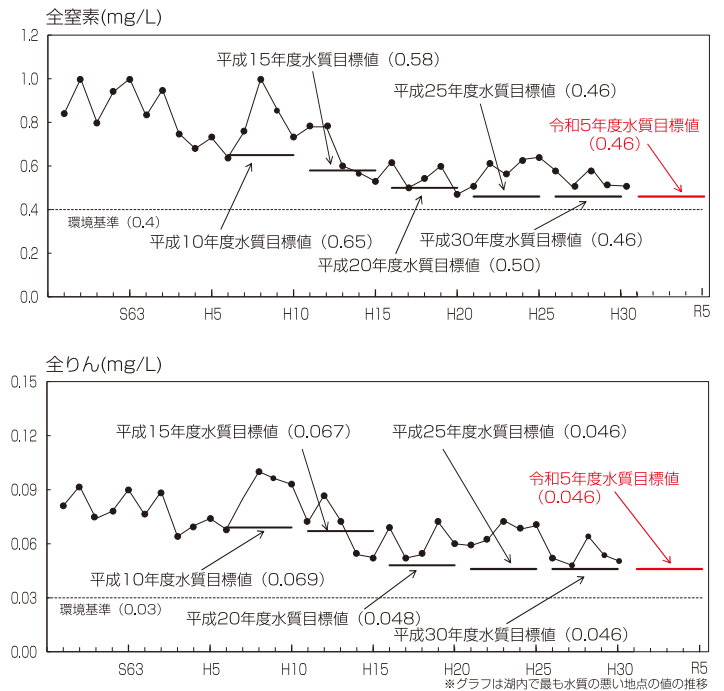
人の健康の保護に関する環境基準(カドミウム等)は、継続して達成しています。

生活環境を保全する上で達成することが望ましい環境基準(全りん等)は達成していません。令和5年度に達成すべき目標値を設定し、その達成に向け流入負荷の更なる削減や調査・研究に取り組んでいます。

### 〈宍道湖〉



### 〈中海〉



### 用語解説

#### 赤潮

水中のプランクトンが異常増殖することで、水面が着色する現象です。赤潮による影響としては、大量に出現したプランクトンが死滅し、腐敗・分解されることによる水質悪化や大量に出現したプランクトンによる鯉づまり、一部の赤潮原因種が生産する毒性物質(すべての赤潮原因種が有毒ではありません)による魚介類の死滅などがあります。

#### 全窒素、全りん

生物の生育にとって欠かせない代表的な栄養分です。家庭排水や工場排水などにより、湖沼に流入する水に含まれる窒素やりんが必要以上に増加すると、湖沼の富栄養化を促進し、やがてプランクトンが異常に増加するようになります。

## かけがえのない財産

宍道湖と中海は、中国山地を源とする1級河川斐伊川水系の下流域にあり、大橋川を介して連なる代表的な汽水湖(淡水と海水がまざる湖)として知られています。その広さは宍道湖は全国第7位、中海は全国第5位で、両湖の面積を合わせると全国最大の汽水域になります。

両湖は、優れた景観を創り出すとともに、レクリエーション等の憩いの場や観光資源、魚介類の生息、渡り鳥の飛来などの場として様々な恩恵をもたらすかけがえのない財産です。

	単位	宍道湖	中海
区分	—	天然湖	天然湖
平均水深 ※1	m	4.5	5.4
湖面積 ※1	km <sup>2</sup>	79.1	86.2
流域面積 ※2	km <sup>2</sup>	1,288.4	595.0
貯水量 ※1	千m <sup>3</sup>	360,000	470,000

※1 宍道湖には大橋川、中海には境水道を含まない。  
国土交通省中国地方整備局出雲河川事務所資料より

※2 宍道湖には大橋川流域、中海には境水道流域を含む。  
全国湖沼資料(第21集)より

## 水はどこから？

宍道湖・中海の流域(右図のオレンジ色で囲まれた範囲内)に降った雨は、河川に流れて宍道湖・中海に流入します。その際、道路上や側溝の汚れ、田畑・山林の栄養も一緒に流入します。

湖沼は、流入した窒素やリンなどの汚濁物質が蓄積しやすく、水質汚濁が進みやすいという特徴があるため、いったん汚濁が進むと水質改善は容易ではありません。

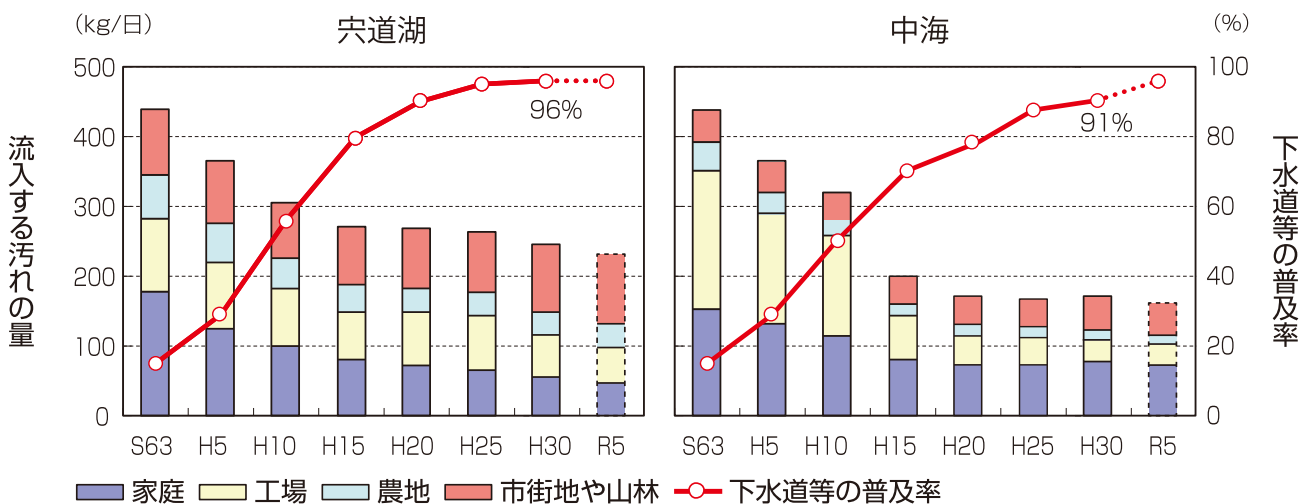


## 流入する汚れの量は減少

宍道湖と中海の水質を保全するため、湖沼水質保全計画を策定し、下水道の整備など各種対策を総合的かつ計画的に推進しています。

これらの対策により、宍道湖・中海に流入する汚れの量(汚濁負荷量)は着実に減少しています。

宍道湖と中海に流入する汚れの量(全リン)



※中海については、島根・鳥取両県の数値を合計したものの

※R5年度は予測値



# 一人ひとりが できることから 始めよう!

- 下水道等の普及率が大きく躍進し、今後はこれまでと違い、大幅な負荷削減が難しくなっています。
- 地域が一体となり、水質浄化や汚濁負荷削減に繋がる取組を継続的に実施することが、より一層大切になっています。
- 宍道湖・中海を「守り、はぐくむ」ために、身近な取組で、一人ひとりできることから始めてみましょう!

## 【水質保全、汚濁負荷削減につながる身近な取組】

### 市街地での取組

- ・公園等の清掃、地域の美化活動
- ・道路側溝、水路の清掃

#### 清掃活動



### 家庭での取組

- ・宍道湖・中海産の魚や貝を食べよう (栄養塩の持ち出し効果あり)
- ・調理くずの流出防止
- ・鍋や皿の汚れ、油汚れのふき取り
- ・廃食用油の回収
- ・下水道等への接続促進や合併浄化槽による適正処理

フライパンや鍋、皿の汚れはまず古紙や古布で拭きとってから洗いましょう。

チラシなどを切って台所に備えておくとう便利

油はなるべく使いきるように工夫し、使えなくなった油は、流しに流さないようにしましょう。廃食用油の回収に出すか、古紙等にしみこませてゴミとして出しましょう。



### 山林での取組

- ・森林の適正管理 (植林、下刈り、除伐、間伐等)

山林等からの流出 (落葉、土壌など)

#### 浅水代かき



#### 排水路の泥上げ



(出典: 農林水産省ホームページ)

#### ヨシ刈りボランティア



### 刈草の放置はやめよう!

除草した草などは放置しないで適正に処分し、河川などへ流出しないようにしましょう。

#### 流入河川調査

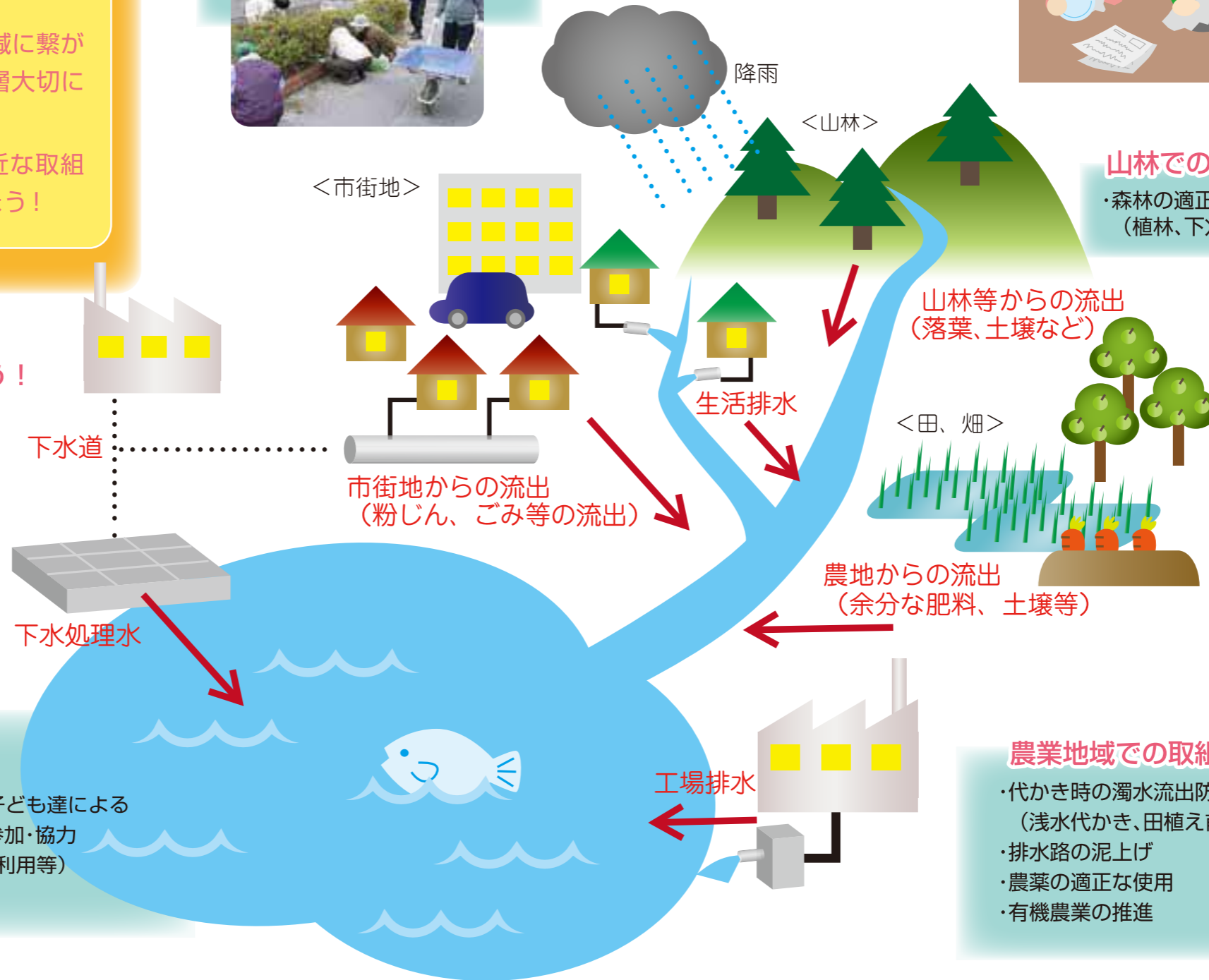


#### 五感による湖沼環境調査



### その他の取組

- ・「五感による湖沼環境調査(湖沼環境モニター)」や、子ども達による「みんなで調べる流入河川調査」など、環境学習への参加・協力
- ・ボランティアによるヨシの刈り取り(堆肥化、草抑え利用等)



### 農業地域での取組

- ・代かき時の濁水流出防止等の適正な水管理 (浅水代かき、田植え前の落水量の低減)
- ・排水路の泥上げ
- ・農薬の適正な使用
- ・有機農業の推進

# 第7期湖沼水質保全計画

対象期間:令和1～5年度(2019～2023年度)

湖沼水質保全計画に基づく各種対策の着実な実施と同計画の定期的な見直しにより、段階的に水質環境基準の達成を目指しており、概ね令和15年度を目途に長期ビジョンを実現することとしています。

## 1. 長期ビジョン（望ましい湖沼の将来像）※

※穴道湖・中海の特性を踏まえ、望ましい湖沼の水環境等に係る将来像を明らかにした長期的なビジョン

穴道湖：みんなで守り、はぐくむ<sup>いのち</sup>生命、豊かできれいな穴道湖

中海：みんなで守り、はぐくむ、豊かな中海



## 2. 水質目標値、望ましい湖沼の将来像に向けての評価指標

### ①水質目標値の設定（穴道湖・中海）

全りん、全窒素及びCODについて、計画期間内に達成すべき水質目標値を設定しました。

### ②五感による湖沼環境の評価（穴道湖・中海）

地域住民等がモニターとして湖沼水環境の感じ方を把握してきた「五感による湖沼環境調査」を評価指標とし、「おおむね良好で、親しみやすい環境にあると感じられる（80点以上）」を目指します。

### ③生物生息環境による評価（穴道湖）

穴道湖の象徴的存在であるヤマトシジミを始めとする汽水域の生物が安定的・持続的に生息するような生物生息環境を目指します。

### ④透明度による評価（中海）

レクリエーション等で多くの人が集まる機会があり、水質改善の必要性の高い米子湾において、透明度がおおむね2m以上となることを目指します。

## 3. 主な対策

### ①水質の保全に資する事業

・下水道や浄化槽などの整備・維持管理

### ②水質の保全のための規制その他の措置

- ・工場、事業場排水対策
- ・生活排水対策
- ・畜産に係る汚濁負荷対策
- ・流出水対策（農業地域、市街地、山林など）
- ・流出水対策地区の指定
- ・緑地の保全その他湖辺の自然環境の保護

### ③その他の水質の保全のために必要な措置

- ・公共用水域の水質の監視
- ・調査研究の推進と対策の検討
- ・総合的な流域管理の取組
- ・ラムサール条約湿地の保全とワイズユース（賢明な利用）の促進
- ・住民の理解と協力及び参加による保全活動の推進 等

[編集・発行]

島根県 環境生活部 環境政策課 穴道湖・中海対策推進室

〒690-8501 松江市殿町1番地

TEL0852-22-6445 FAX0852-25-3830 [http://www.pref.shimane.lg.jp/shinjiko\\_nakaumi/](http://www.pref.shimane.lg.jp/shinjiko_nakaumi/)

計画本文は、  
県HPで見  
ることができます。

